



## くつそろえ

ねん くみ ( )

「いんとくをつむ」ということばを、ハルカはおばあちゃんからおしえてもらいました。

『「いんとくをつむ」っていうのはね、ひとに知られることなく、いいおこないをするってことだ。そうすると、いつかめぐりめぐって、じぶんのもとにかえってくるんだから。』

それをきいて、ハルカはだれにも知られないところで、いいことをやりはじめました。ゴミをひろったり、そうじをしたりするのです。

さいきんやっているのは、はやくとうこうして、みんなのうわぐつをきれいにととのえることです。ハルカがととのえたあとのくつばこは、かがやいているようにみえました。

あるひのひるやすみ、ハルカはせんせいによびだされました。

「ハルカさん。がっこうにくるのがはやいでしょう。」

「はい。いえをでるじかんを早くしているのです。」

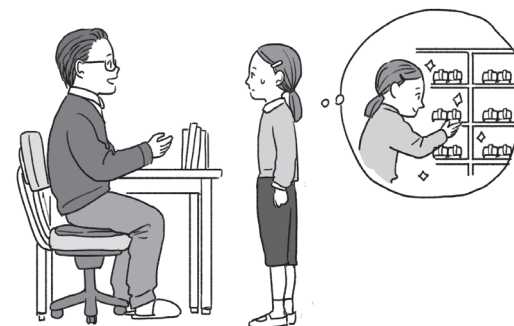
「くつばこのくつを、だれかがいつもととのえてくれているの。だれがやっているのか、知らないかな？ み

んなに しらせたいんだ。」

ハルカは、びっくりしました。せんせいに、きづかれていたなんて。

しょうじきに いってしまおうと、みんなに しられてしまうことになります。でも、うそをつくのもよくないし——。

ハルカは、こまってしまうしました。



ハルカは、どうこたえるべきでしょうか。あなたのかんがえと りゆうをかきましょう。

---



---

はなしあって かんがえたことを かきましょう。

---



---